

**製品名: KVβ.3 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab13172**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	45kDa

**抗原情報**

遺伝子名	KCNAB3
別名	KCNAB3; KCNA3B; Voltage-gated potassium channel subunit beta-3; K(+) channel subunit beta-3; Kv-beta-3
遺伝子 ID	9196.0
SwissProt ID	O43448
免疫原	抗血清はヒト KCNAB3 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 293-342

**背景**

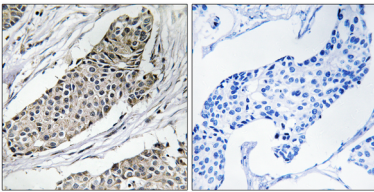
この遺伝子は、電位依存性カリウムチャネルのシェーカー関連サブファミリーに属するタンパク質をコードしています。コードされ

ているタンパク質は、機能的な Kv- $\alpha$  サブユニットと関連する補助タンパク質である  $\beta$  サブユニットの1つです。コードされているタンパク質は、カリウム電位依存性チャンネルのシェーカー関連サブファミリーのメンバー5の遺伝子産物とヘテロ二量体を形成し、 $\alpha$  サブユニットの活性を制御します。[RefSeq 提供、2012年5月]、ドメイン： $\alpha$  サブユニットの機能特性の改変は、 $\beta$  サブユニットのN末端ドメインを介して行われます。機能：ポア形成  $\alpha$  サブユニットの活性を調節する補助的なカリウムチャンネルタンパク質。Kv1.5の機能特性を変更します。類似性：シェーカーカリウムチャンネルの  $\beta$  サブユニットファミリーに属します。サブユニット： $\alpha$  サブユニットとヘテロ多量体複合体を形成します。組織特異性：脳特異的。小脳で最も顕著に発現しています。皮質、後頭葉、前頭葉、側頭葉では弱い信号が検出されました。脊髄、心臓、肺、肝臓、腎臓、膵臓、胎盤、骨格筋では検出されませんでした。

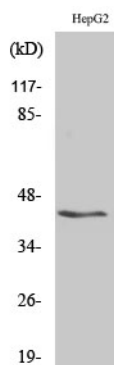
## 研究分野

-

## 画像データ



KCNAB3 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



KV $\beta$ .3 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析